

森林施業の問題点等に関するアンケート調査

課題2 目標とされている森林施業のあり方に関する問題点と対応

●複層林施業

目標林型としての複層林（択伐林型）と更新技術としての複層林（短期二段林）を分けて考える必要がある。後者は、「複層林施業」と言わずに、「二段林作業」と呼ぶのがいいかもしれない。このことをきちんと認識していないために、更新過程の1段階であるはずの二段林形態をいつまでも維持し続けることに囚われたり、複層林造成（樹下植栽）そのものが目的化してしまったりという弊害が生じている。

●長伐期施業

主伐をせずに森林を高齢化させることが長伐期施業ではない。目標とする施業のあり方を議論するには、きちんとした長伐期施業と施業放棄的な高齢化とを分けて考える必要がある。

また、いろいろなところ（場所・場面）で、間伐と択伐があいまいになっていることも問題である（両者をきちんと分けて考えることが難しい場面があるのも確かだが）。両者には、主林木を育てるための作業なのか、次世代の木を更新させ、あるいは育てるための作業なのか、という明確に異なる目的がある。林冠の再閉鎖が将来的に望めないような伐り方をしておいて、それを間伐と称しているのは、このことがきちんと認識されていないためであると考えられる。このような更新が必要な伐採でありながら、更新の必要性を認識していないために、更新の機会を逸してしまう現場が出現し始めていることを懸念する。人工林が高齢化するにつれ、1本の木を伐採したときにできる空間が大きくなり、また、間伐の目的の中で収穫の比重が高くなるため、間伐と択伐を区別するのが難しくなるが、ことは森林の保続・林業の持続に関わることなので、両者の区別をどのようにとらえるかを整理しておくことが必要である。